

令和元年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	「安曇野ふるさと遺産」活用事業
事業主体 (連絡先)	NPO 法人安曇野ふるさとづくり応援団 安曇野市穂高柏原 1132-2
事業区分	(5) 環境保全・景観形成に関する事業 (6) ア特色ある観光地づくり
事業タイプ	ソフト
総事業費	915,100 円 (うち支援金 : 675,000 円)

事業内容

安曇野市内の文化遺産等の基本調査を行い、ワークショップでの市民の意見等も参考に独自基準を設けて「安曇野ふるさと遺産」として認定し、認定エリアの市民活動団体と協定を締結する。認定した「安曇野ふるさと遺産」は広く市民に PR するとともに、専用サイトやマップ版リーフレット等を作成して市民への啓発を行う。また、「安曇野ふるさと遺産」を市民との協働の場として活用し、屋敷林フォーラムやリレー展等で活動内容や事例等を紹介する。



【屋敷林フォーラム】

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

「安曇野ふるさと遺産」をきっかけに、市民団体や行政とのネットワークが広がるとともに、ワークショップ、フォーラム、リレーパネル展示、サイトの拡充、マップ版リーフレットの作成により市民の文化遺産への関心を高めることができた。また、既存の認定エリアの協定団体の活動支援を行うことで連携を深め、保全活用へとつなげていく礎を築くことができた。

- ・プロジェクト会議 3回 (延 30名)
- ・市民参加ワークショップ 2回 (延 35名)
- ・基本調査文化遺産 7候補から 2地域を認定
- ・協定を締結した市民団体等 2団体
- ・屋敷林フォーラム参加者 92名

【目標・ねらい】

- ①文化遺産の現状把握
- ②文化遺産の広報 PR
- ③文化遺産の保全活用
- ④市民ネットワークの構築

※自己評価【A】

【理由】市民主体の文化遺産の保全活用事業としてマスコミにも大きく取り上げられ、屋敷林フォーラムにも多くの参加があった。
また、既存認定エリアの協定団体の活動を支援し、今後に向けた連携を強化することができた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

既存の認定エリアの協定団体との連携により、継続して調査研究、活用方法の検討、活動支援等を行うとともに、「ふるさとウォッチング」「安曇野さんぽ」等を開催して市民への PR を行っていく。また、他の候補エリア等についてもワークショップ等で議論を深め、次年度以降も認定エリアを追加していくと共に、景観整備機構の指定を受けて行政との連携を強化し、「安曇野ふるさと遺産」を核とした協働による景観まちづくりのしくみづくりを目指す。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある